

第5回 ごみ処理恵庭モデル検討会(議事録)

日 時:令和4年7月11日(月)17:00~19:00

場 所:市民会館2階 視聴覚室

出席者:10名 【会 長】中尾 文子
【副会長】吉田 英樹
【委 員】小林 貴・菅原 伸治・河野 恵美・大嶋 亮馬
落合 信也・平井 梓・石上 一美・槇 愛美

事務局側:野村 孝治(生活環境部長)・中山 真(廃棄物管理課長)
田中 徹(同主幹)・谷村 直宏(同主査)・水野 光代(同主査)
牧野 有紘(同主事)

1. 開 会

2. 挨拶(会長)

3. 第4回ごみ処理恵庭モデル検討会の振り返り

4. 議 事

(1)テーマ別ワークショップ

- 1)ごみ減量
- 2)分別適正化
- 3)ごみ袋
- 4)排出・収集
- 5)廃棄物処理施設
- 6)事業系廃棄物

5. その他

(事務局より「第6回目の検討会は7月27日を予定していること」を報告。)

6. 閉 会

～議事要旨～

5 議事

～事務局より説明(資料1「第5回ごみ処理恵庭モデル検討会」)～

事務局： 前回、第5回だけでワークショップを完結させると説明しておりましたが、内部で協議した結果、第5回のワークショップでは意見出しを中心に行い、第6回で2035年を目安としたロードマップを作成し、それぞれの班から発表していただくという形で進めたいと考えております。ワークショップでは、当初から区分しておりますとおり、ごみ減量、分別適正化、ごみ袋、排出・収集、廃棄物処理施設、事業系廃棄物の大きく6項目について、市民、事業者、市、それぞれができること、行ってほしいことなどのアイデアを多く出していただいて、最終的にこうなればいいなと思う社会、あるべき姿について考えていきたいと考えております。本日お配りしている資料としましては、2ページ目のアイデア出しについて大きな模造紙を用意しており、3ページ目に今までの意見のまとめを載せております。私たちの方でイメージしていたものが2035年に向けたロードマップの検討、作成ということで、4ページ目を考えていましたけれども、どうでしょうか。2050年の大きい姿を共有しておいた上で、それぞれの項目で2035年に向けて色々な施策を考えていく進めの方が意見を出しやすいでしょうか。

副会長： アイデア出しはここに書いてある通りに進めていただいてよいと思います。それとは別に施設の見直し時期をどこかに書いていただき、それを見て例えばリサイクルセンターを5年以内に更新するという程度の見込みがあるなら、具体的に5年先に向けて分別のルールを見直そうといったことが考えられます。施設は20年が見直し時期になるので、ロードマップの中ではこの施設が具体的にいつ頃切り替わるのか、そのような流れを考えながら検討するのが良いと思います。

事務局： 施設で大きく変わったところは、令和2年の焼却施設の稼働です。ロードマップでは、令和2年から15年経過する令和17年を目安に置きました。焼却施設では、稼働から概ね15年から20年で基幹改修を行って、15年程また使うと考えていますので、焼却施設は2050年位を見直し時期の目途として考えております。最終処分場については、現行の第6期処分場が令和15年位まで供用でき、このまま焼却施設が稼働していけば、第7期処分場は2050年までは供用できるのではないかと考えております。そのような中で、リサイクルセンターが一番流動性が高いと思っております。後ほどホワイトボードを使って施設の状況をロードマップに図示いたします。また、第3回の検討会で、2050年になると恵庭市でも約1割ほど人口が減少すると推定されておりますけれども、北海道の中で地の利が良い恵庭市を住みやすいまちとして、2050年にゼロカーボンシティ宣言もしておりますので、こういったものに向け

て、将来、子供たちが住み続けたいと思えるまちというようなものを大きく考えていきたいと思っております。

(1)テーマ別ワークショップ(2グループに分かれて実施)

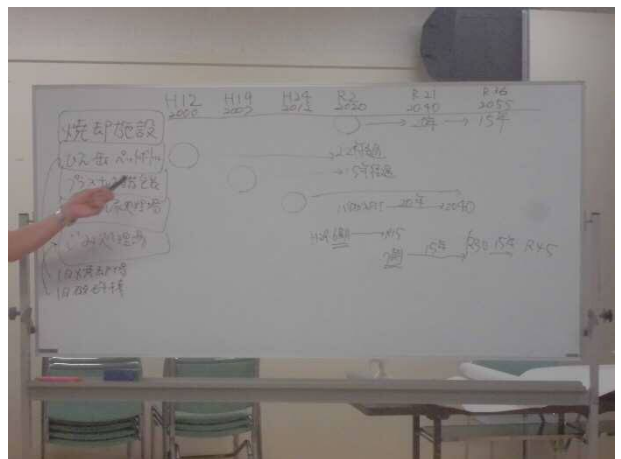
《Aグループ》 ワークショップの様子



《Bグループ》 ワークショップの様子



《施設の状況》



以上